

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375900327		
法人名	社会福祉法人せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホーム吉良荘		
所在地	愛知県西尾市吉良町宮崎鉢貫11番地		
自己評価作成日	平成25年 1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2375900327-008&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2375900327-008&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目24番地6-5		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全室から三河湾を眺めることができ、毎朝昇る朝陽は絶景で楽しみにしているご利用者もいらっしゃいます。地域の方とも防災訓練、祭り、フェスティバル、編み物教室などで交流を重ね、関わりを深めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は三河湾を望む海岸沿いの高台にあり、元保養所を改造して2階部分を使用している。居間をはじめ全室オーシャンビューを満喫することができる。入居者は、日の出や夕暮れなど自然の雄大さを感じながらゆったり、和やかに職員と語り合いながら過ごしている。居間はこじんまりとしているがテーブルやソファの配置を工夫したり、入居者の作品やイベント時の写真を飾り、楽しく居心地のよい空間となっている。職員も明るく利用者に接しケアをしながら、目標達成計画である認知症進行予防学習の実施や窒息予防の学習会、避難方法のシュミレーションなどの課題に熱心に取り組んでいる。町内会や温泉組合の地域行事にも積極的に参加し、災害時には避難の支援も受ける事ができるなど地域との協力関係を深めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	項目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂に法人、吉良荘共に理念を掲げている。毎月の吉良荘の会議で吉良荘の理念を記入するようにしている。	居間には法人の理念と共に吉良荘の理念が掲示され、日々、目視や声かけなどで確認しながらケアに活かしている。毎月のミーティング時に理念を各自、会議次第に記入し再確認しながら共有と実践に活かす努力をしている。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(防災訓練、お祭り、総会など)に参加したり、買い物をしている。	町内会や温泉組合に加入しており、地域のイベントに参加したり、地域の商店で買い物をしている。温泉組合の防災訓練に参加し、災害避難時の援助や温泉施設の使用などの協力が得られることになった。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法については緊急時の対応として利用者さんがわかるように特徴や手伝って欲しいことなどを書いた用紙をお渡ししている。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「家族、地域の方からの声」を作成し、気になることなど、記入していただいている。運営推進会議の時、取り組みの報告を行い、改善案を検討している。	2ヶ月に1回の運営会議は、家族や入居者、行政関係、地域や温泉組合関係、商店の方など多数の参加がある。状況報告やお知らせ、目標達成計画の取り組みについて現状報告をしている。出席者からは意見やアドバイス等がありサービス向上に活かしている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿課へ行った時は、担当者と最近の事業所の実情などを話している。	運営推進会議の他、月1回程度市役所を訪問し、担当者に事業所の状況報告をしたり、意見やアドバイスをもらってサービス向上につなげるなど、連携を保ち協力関係を築いている。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。利用者の意見を尊重し、スピーチロックをしないように心がけている。	年1回はマニュアルに基づいて研修を行い、職員の共通認識を図っている。年2回のマッピング結果のフィードバックや日常のケアの中でもスピーチロックなどお互いに注意し合っている。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	衣服の着脱時には、虐待の痕がないか確認をしている。法人内の勉強会にて学び、虐待防止に努めている。	

目 次	部 外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、必要性を話し合ったり、活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明がおわった後に本人様や家族へ不安や疑問があるか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、地域の方からの声(気づきなど)を集めるよう用紙に記入をお願いし、改善に向け取り組んでいる。	日々の生活の中で得た入居者の意見・要望は要望シートに記録している。家族や地域の方からは、「ご家族・皆様の声」カードを考案し、意見や要望を記入して頂くようにしている。カードは手渡しをしたり、玄関に置くなどして、出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や毎月に行う吉良荘会議の際、職員の意見や要望を聞き、反映をさせている。	毎月のミーティングや年4回の個人面談で職員の意見・要望を聞く機会を設けている。年2回のマッピングの結果もフィードバックされ運営に反映されている。管理者は職員と2人になった時にそれとなく要望等を聞き出す努力をしている。職員同士のチームワークも良く新人を育てる心配りが行き届いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をする機会を設け、個々の要望や目標に対する進捗状況を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量を把握しながら各々の研修、勉強会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ぐるぐる会議(GH4事業所)、グループホーム交流会、地域を守る会(西尾市のGH事業所と病院)に参加している。		

自己評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安も多いと思うので、利用者の話をよく聴き、要望や意見がでてきたら「利用者の要望」用紙に記入し反映に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から困っていることや不安なこと、要望を伺い、安心していただけるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前に本人様の事前調査を行い、何が必要であるか見極め、支援を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士声をかけ合いながら、掃除、洗濯、調理、散歩などを行っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの関係を大切にしながら、家族が本人様を連れて外出、外食の支援を行っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が協力して馴染みの美容院や喫茶店へ行っている。今まで通っていた近くの編み物教室へ行っている方もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声をかけあい、家事などを行っている。自ら話をされない方は職員が配慮し、孤立しないように努めている。

日 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人の様子を把握することに努めている。相談があれば、伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者の意見や要望を大切に「利用者の要望」用紙に記入している。	日常生活の中で、本人から聞いた思いや意向は「利用者の要望」用紙に記入し把握している。また、24時間シートを活用したり、家族からの情報も含め希望や意向をケアプランに活かすようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの記入してある利用者情報シートを活用し、把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方を知るため、職員の介護の仕方を統一する為に24時間シート活用し、把握に努めている。		
26 10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月に行う吉良荘の会議時でのカンファレンスとサービス担当者会議にて話し合い介護計画を作成している。	月1回のミーティングでモニタリングをし、3ヶ月に1回のサービス担当者会議では、入居者や家族、看護師、職員等で主治医の意見書も参考にしながら、意見交換をし現状に即した介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中からでてきた要望を利用者要望書と介護記録に記入し、サービス担当者会議に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議で本人様や家族に状況を話し合い、ニーズに対応できるように努めている。		

日 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や運営推進会議で町内会長から地域の行事を伺い、利用者と積極的に参加している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院にご家族と一緒に受診している。事情のある方は地域の病院に職員と一緒に受診している。	本人や家族等の希望を大切に、かかりつけ医での医療継続を実施している。通院は家族にお願いしているが、必要に応じ送迎など支援をしている。協力医とは往診等、緊急時に対応できるよう連携をとっており、適切な医療が受けられるように支援している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	せんねん村の看護師と情報共有をし、対応に困った時はアドバイスを受けることができるような体制ができている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報交換や相談を行っている。病院関係者とグループホームの事業所で行われる地域を守る会に参加している。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は法人内の施設や近隣の特別養護老人ホームを薦める。終末期に関しては事前指定書の記入内容をもとに支援していく。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族や本人と話し合い、「事前指定書」で方針を確認している。年に一度本人・家族等と話し合いを行い見直しをしているが、状況が変化した場合は随時見直しをしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるように、学習会やシミュレーションを行っている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三河温泉組合との協力体制あり、火災時などは吉良荘へきていただける。年2回は避難訓練と年1回炊き出し訓練を実施した。非常食や備蓄品は5日分用意がしてある。	年2回、火災を想定した避難訓練を実施している。訓練ごとに火元を変え、避難方法と避難場所の周知を図っている。震災についても運営推進会議で評議されている。地域の防災訓練に参加し情報を得たり、協力体制を確認している。備蓄は水や食糧品、オムツ(多目的に使用できる)など5日分準備している。地域の方の参加も得て役割分担など協力体制が構築出来ている。	災害時、地域の人との協力体制を話し合い、避難時の名簿を配布している。災害時の混乱を予想し、一目で誰にでも識別できる色カードの利用等を試みるのも一考と思われる。

日 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を損なわないように、対応している。マッピングのフィードバックを活用し、言葉のかけ方を工夫している。	接遇について年1回の研修をしている。特に言葉かけについてはミーティング等で常に話し合い、誰が聞いても不快にならない、その人の尊厳を損なわない等を話し合い支援につなげている。マッピングのフィードバックの活用をしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へ選択枝を与え、本人様の意思で選んで頂けるように働きかけをしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	忙しい時もあるが、各々のペースを大事にしている。職員側の都合にならないようにご利用者、ご家族の希望をサービス担当者会議等で聞き出し、要望に添えるよう努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が自由に身だしなみを整えることができるように、くしや鏡が用意してある。利用者の意見を伺い、定期的な整髪や髪染め等を行っている。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から献立を立てる時に希望を伺っている。食事の準備や片付けなど出来る事を行っていただいている。	献立は入居者の希望を取り入れている。食材の買い出しに行ったり、準備や片付けなどその人の力量にあわせて一緒に行っている。入居者にあわせた盛付や食材の大きさ、硬さを工夫しており、和やかに食卓を囲んでいる。茶わんや箸も利用者ごとに愛用のものが使用されている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に応じて形状、提供量を変えている。栄養が偏らないようにバランスを考えて作っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々にあった歯ブラシやくるりーナブラシを用意してある。毎食後、口腔ケアを行っている。		

日	部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員綿パンツを使用。排泄チェック表を参考に定期的に排泄パターンをチェックしている。パットの大きさや排泄時間も個人に合わせて行っている。	排泄チェック表やそぶりから察知して個々に合わせた排泄誘導の声かけをしている。自立支援の努力の結果全員綿パンツを使用するようになった。声かけはその人の誇りやプライバシーを傷つけないよう小声で行うなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの提供、なるべく薬に頼らないように排泄時に腹部のマッサージやいきむ事を促している。でない時は下剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は限られてしまっているが、その中でも希望を伺いながら入浴を行っている。浴室と脱衣室の温度差がなるべくかわらないように、浴室の湿気を脱衣場へ送っている。	午後の時間帯に最低でも週2回は入浴が出来るように支援をしている。ヒートショック対策として更衣場所は温度と湿度を保つ工夫をしている。入浴を嫌がる人には個々に合った言葉かけを工夫している。普段は香りを楽しむ入浴剤を使用しているが、ゆず湯やしょうぶ湯など季節に合わせた趣を感じる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者自身の意思で居室へ休みにいかれる。職員は利用者が疲れていないかなど状態観察をし、就寝、休息ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を個人のカルテに管理して、薬の変更があるか記録を残し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好品、楽しみの記載された利用者情報、生活歴情報を活かして支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望になるべく添えるように、季節ごとの外出のイベントを組み合わせながら支援している。ご家族の協力もある。	気候のよい時は散歩や買い物に出たり、戸外に出て施設の周りの花に水をやりたりしている。年間計画はなるべく入居者の希望を入れて季節ごとに組み、外出支援をしている。地域の行事には積極的に参加している。喫茶店や食事、美容院等は家族の協力を得て実施している。	



日 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は管理を職員で行っている。買い物の際に希望の物を一緒に購入したり、支払いを利用者本人に行っていたいただいている方もいる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族、地域の方と年賀状のやり取りがある。身内の方とお話する為、携帯電話を使用している方もいる。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節に合った貼り絵をしたり、習字を行ない、飾り付けをしている。風邪が広まらないよう温度、湿度計を設置し、気を配っている。	広い窓ガラス越しに三河湾が広がり、ソファーに座りゆったりと美しい海を眺めることができる。入居者は食卓を兼ねたテーブルを囲み思い思いに職員と話をしたり季節の作品作りなどをしながら穏やかな時間を過ごしている。居間の壁には理念と一緒に、入居者のイベント時の写真コーナーや作品が掲示され思い出を共有する工夫がされている。換気に心がけ不快な匂いがこもらないように配慮している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等でくつろげる場所もあるのだが、一人になれる場所が居室しかない		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、時計、棚、昔の写真等、馴染みのものを持参していただいている	元保養所の客室を改造した各居室の大きな窓からは三河湾を一望することができる。雄大な景色を自分の庭のように見ることが出来、季節の移ろいを感じ取ることもできる。入居者は馴染みの物を持ち込み自分の部屋として気持ちよく過ごしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に歩行ができるようにバリアフリーになっており、長い廊下には手すりが完備されている。		